

平成 29 年度  
運輸安全マネジメントの取組み

**名鉄バス株式会社**  
**名鉄バス中部株式会社**  
**名鉄バス東部株式会社**

## 【社長指針】

「私達の最大の使命は、安全の確保とCSの向上！」

## 【最重点項目】

- ・ 基本動作の徹底。「決められたことを何がなんでも守る」。
- ・ 事故、故障等の異常が発生したら、「異常時には動きを止める」を必ず実施し、速やかに報告すること。
- ・ 班集会等における双方向コミュニケーションのより一層の活発化と、組織の枠を超えた情報の共有化を図る。

### 名鉄バスグループ運輸安全マネジメントに関する取組みについて

名鉄バスグループは、社長以下全社員が一丸となって、輸送の安全を確保するために、以下のとおり取り組みます。

## 1 輸送の安全に関する基本的な方針

- (1) 安全輸送が名鉄バスの根幹であり、最優先します。
- (2) 経営トップが率先して安全の声を聞き、安全輸送最優先の意識を徹底します。
- (3) 安全輸送のための PDCA サイクルを回し、安全輸送最優先の意識を徹底します。

## 2 輸送の安全に関する目標および当該目標の達成状況

(1) 平成 28 年度に設定した目標および達成状況

重点目標	実績	評価
有責事故 15%削減	平成 27 年度件数に比べ 7%削減	未達成

注：名鉄バス東部(株)、名鉄バス中部(株)および名古屋市交通局受託路線を含む

(2) 平成 29 年度に設定する目標

重点目標
有責事故抑止目標 10%削減

## 3 平成 28 年度自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故の発生状況

類型別内訳	件数	備考
人身事故	4 件	
車内事故	3 件	
健康起因	22 件	
人的被害のない車両故障	4 件	
合計	33 件	

## 4 輸送の安全に関する重点施策

### (1) 全社員の安全意識の向上

- ・ 全社員が関係法令、安全管理規程を守り、安全輸送を最優先します。

### (2) 安全への投資

- ・ 安全輸送への必要な支出や投資を積極的に行います。

### (3) 内部監査と改善

- ・ 安全輸送への取り組みについて内部監査を行い、必要な改善を行います。

### (4) 情報共有の体制づくり

- ・ 必要な情報を全社員が共有できる連絡体制を確立します。

### (5) 教育・研修の計画を決めて実行します。

- ・ 教育及び研修を体系化することで計画的に実行します。

## 5 輸送の安全に関する計画

### (1) 会議体

	名称	開催頻度	備考
①	安全対策委員会	随時	安全に関する方針の決議、収集した他社事例の情報共有
②	全社安全推進委員会	年2回	上半期および年間の効果検証を行う
③	所長会議	毎月	社長訓示を配布
④	安全管理委員会	毎月	安全統括管理者訓示を配布
⑤	助役・班長会議	毎月	本社スタッフも参加
⑥	班集会	毎月	全運転士が参加

## (2) その他の取組み

- ① 運輸安全マネジメント周知カード
- ② 営業所事例発表会
- ③ 社長から家族への手紙送付
- ④ ベスト CS メンバーカードの発行
- ⑤ 高齢者バスの乗り方教室
- ⑥ 安全運転競技会
- ⑦ 社長、安全統括管理者による職場巡視
- ⑧ トップと従業員との意見交換会(トップと語る会)
- ⑨ 早朝点呼立会い
- ⑩ 異常時訓練の実施
- ⑪ ヒヤリ・ハット活動の活性化
- ⑫ 新人同期ミーティング
- ⑬ 運転士教本への「接遇」を追加
- ⑭ 班集会の開催時間を営業所の特性に合わせ変更
- ⑮ 事故情報システムの構築
- ⑯ 班別 25 万キロ無事故表彰を半期毎優秀班表彰に変更

## (3) 輸送の安全に関する内部監査の実施について

### フォローアップ監査

	平成 28 年度	平成 29 年度
目的	運輸安全マネジメント内部監査の改善状況の確認	
実施日	平成 28 年 7～8 月	平成 29 年 7～8 月
対象者	安全統括課、全営業所	
実施者	名鉄バス監査担当、(独)自動車事故対策機構	

### 内部監査

	平成 28 年度	平成 29 年度
目的	運輸安全マネジメント体制(輸送の安全に関する取組み)の確認 運輸安全マネジメントフォローアップ監査後の確認	
実施日	平成 28 年 11 月	平成 29 年 11 月
対象者	社長、安全統括管理者、安全統括課、全営業所	
実施者	本社は(独)自動車事故対策機構、営業所は名鉄バス監査担当および(独)自動車事故対策機構	

## 6 輸送の安全に関する投資の実績および予算額

(単位:百万円)

項目	内容	平成 28 年度実績		平成 29 年度予算	
		金額	備考	金額	備考
従業員の研修・教育等	安全に関する教育費用	54	教育人件費	72	教育人件費
	健康管理に関する費用	17	定期健康診断、SAS・インフルエンザ対策	16	定期健康診断、SAS・インフルエンザ対策
	運転士の安全意識向上にかかる費用	14	各種表彰、バスまつり	16	各種表彰、安全運転競技会
内部監査	内部監査 フォローアップ監査	1	自動車事故対策 機構委託料	1	自動車事故対策 機構委託料
車両	車両購入費用	1,277	54 両購入	1,070	44 両購入
設備・機器	安全装備の推進	63	教習車両更新、 教習用備品、エンジンOH、ヘッド ライト交換	853	岡崎営業所建替え、 車載器通信向上、 事故情報システム構築
合計		1,426		2,028	

## 7 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統

安全管理規程参照(別紙)

## 8 事故、災害等に関する報告連絡体制

安全管理規程参照(別紙)

## 9 安全統括管理者

名鉄バス株式会社 瀧 修一(常務取締役)

名鉄バス中部株式会社 瀧 修一(取締役)

名鉄バス東部株式会社 瀧 修一(取締役)

## 10 安全管理規程

別紙

## 11 輸送の安全に関する教育及び研修の計画

### (1) 平成 28 年度の実施状況

名称	開催回数	受講者数
新任運転士研修	12	112
1 年次運転技能研修	12	77
正社員研修	12	80
4 年次研修	3	27
ミドル運転士研修	8	59
新任主任運転士研修	2	24
新任教導主任運転士研修	2	36
教導主任運転士勉強会	3	24
新任助役研修	1	14
S 級ドライバー初任研修	2	28
S 級・シニアD研修(エイジ 63)	2	16
シルバーミーティング	2	21
CS 向上研修	4	24
バスセンターCS研修	12	21
クレフィール研修	10	50
安全運転研修	30	90
中央助勤者研修	1	7
茨城中央研修所	1	4
運行管理者研修	4	84
A職コンプライアンス研修	1	25
運輸安全マネジメント研修	1	30
トップ講演会	1	60
合計	126	913

### (2) 平成 29 年度の実施予定

名称	開催回数	受講者数
新任運転士研修	12	120
1 年次運転技能研修	12	107
正社員研修(過渡期)	6	73
3 年次研修 (旧:4 年次研修)	10	79
ミドル運転士研修	10	80
新任主任運転士研修	2	24
新任教導主任運転士研修	2	36
教導主任運転士勉強会	4	37
新任助役研修	1	14

名称	開催回数	受講者数
S 級ドライバー初任研修	2	21
S 級・シニアドライバー研修(エイジ 63)	2	11
シルバーミーティング	2	14
S 級・シニアドライバー安全運転研修	20	60
CS 向上研修	4	24
バスセンターCS 研修	12	36
クレフィール研修	8	57
安全運転研修	24	72
中央助勤者研修	3	27
茨城中央研修	1	4
指導担当者研修	3	17
運行管理者研修	4	85
A 職コンプライアンス研修	1	25
運輸安全マネジメント研修	1	30
トップ講演会	1	60
合計	147	1,113

## 12 輸送の安全に関する内部監査結果及びそれを踏まえた措置内容

監査結果(今後の課題)	対応策	内容
「決められたことは必ず守る」ことの再徹底を図ること。	最重点項目の見直し、重点 6 項目の設定	事故内容をみると基本動作の欠如に起因していることが多いため、最重点項目を「決められたことを何かなんでも守る」とし、さらに重点 6 項目を定め、徹底を図る。
ヒヤリハット報告を活用すること。	ヒヤリハットセミナーの開催、ヒヤリハット報告会の継続開催	ヒヤリハット活動の活発化で、報告件数が大幅に増加。PDCAサイクルに沿って取組み、「効果の検証」まで行うため、セミナー、報告会の実施でさらなる意識の向上を図る。
班活動を活性化させること。	班集会開催方の見直し	班集会の出席率を上げるため、画一的な開催日時を各営業所の勤務特性に合わせた日時に開催するよう変更し、情報が全運転士への周知されることを図る。

以上